A person is sitting on a large, dark beanbag chair in a dark room. They are looking up at a glowing, curved light fixture that hangs from the ceiling. The light fixture is illuminated from within, casting a soft glow. The room is dark, with the light from the fixture being the primary source of illumination. The person is wearing a light-colored jacket and dark pants. The overall atmosphere is calm and contemplative.

柔らかな境界

Time change Installation

タイトル : 柔らかな境界

隈研吾さんの「境界」という著書から、門や鳥居には空間を分ける境界として空気感や時間感覚を変化させる効果があると知りました。そこからこの作品自体が柔らかな境界となり、鑑賞者にゆったりとした時間感覚を与えるものになればと思い、名付けました。

研究テーマ : 時間の流れや、季節の移ろいの可視化

作品概要 : その時々为天候や時間変化によって池の水面の光や影が変化する。擬似庭園のイメージ。

実際の庭園のように、晴れの日、曇りの日、雨の日、鑑賞者が訪れる時間帯や季節でも見える表情が変わります。

作品の経緯

自分自身の体験と感情



人の多い街は楽しい部分もあるけど少し疲れてしまう。
そうすると、自然のある公園とか静かな場所に行きたくなる。
東京に行っても新宿御苑とかにいる方が気が楽。



なぜ？



★ 時間の流れをゆっくりに感じる

★ バタバタとした日常から切り離された空間



これらの点に心地よさを感じているのかも・・・

なぜそう感じさせられるのか？

★ 時間の流れをゆっくりに感じる

人は水や木々のゆらぎを眺めていると落ち着いたり、安らぎを感じるから。
火を見ていると落ち着く原理と似ている→ $1/f$ のゆらぎ

★ バタバタとした日常から切り離された空間

日本特有の空間操作。門や鳥居などが空間を分ける境界となって
空気感や時間感覚を変化させているように感じる。

時刻に縛られない、自然な時間の流れ（気候や季節変化）を感じられる場所が好きという
自分自身の体験や感情から、それらを可視化することにしました。

庭における池の水面で天候の変化を表現



- 気圧が高い時 空は晴れて、池の水は静か。波紋も小さい
気温が高い時 比較的天気穏やかだと想定



皿は下がる



- 気圧が低い時 雨や風が吹き、波紋も大きくなる
気温が低い時 比較的天気崩れやすいと想定

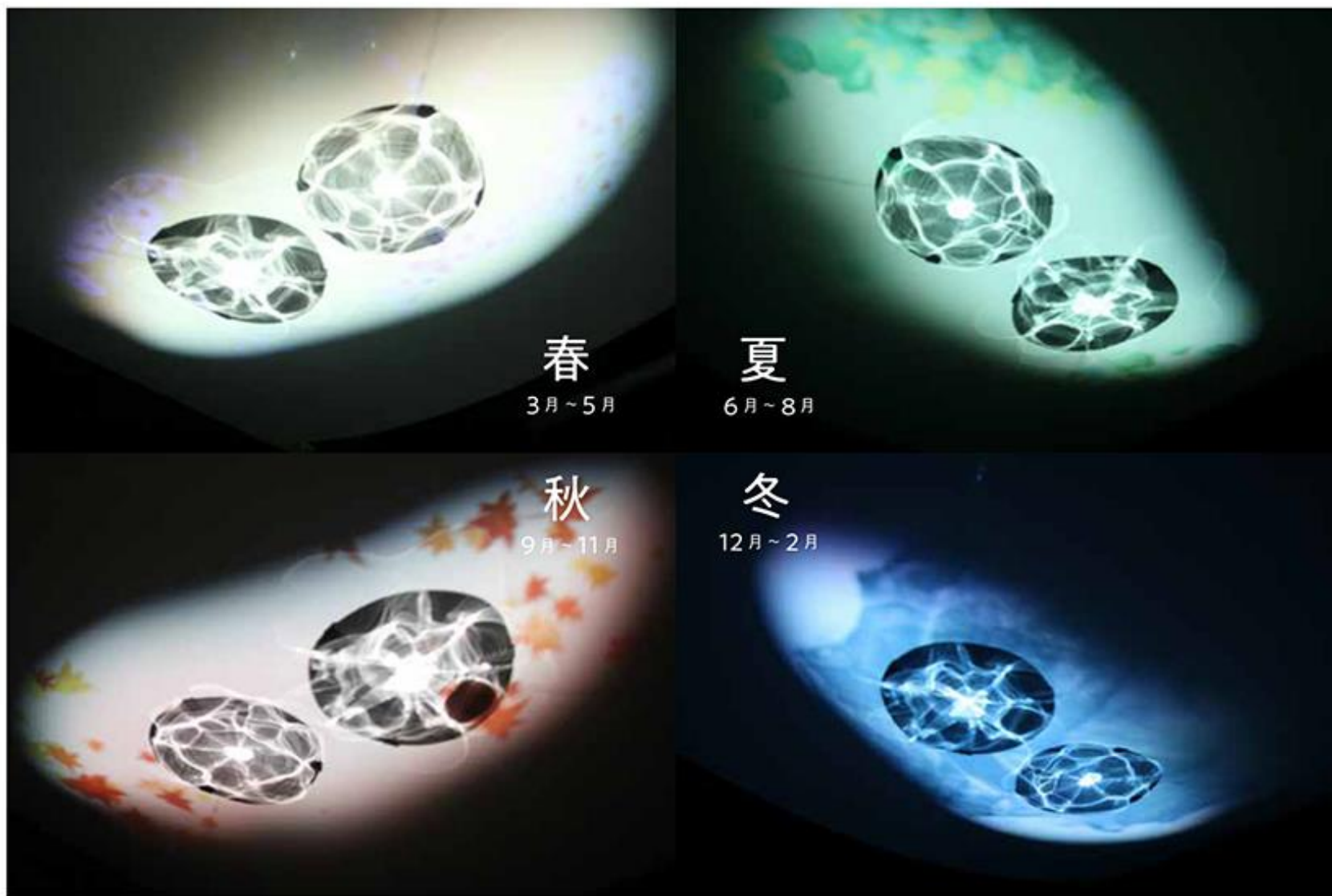


皿は上がる

光源の色の変化で一日の時間経過を表現



その月にあった植物や自然現象で季節の移ろいを表現



3つの要素の重なりでその日見られる景色が変わります。

1 気圧と気温



波紋の大きさ

+

2 時間



光の色

+

3 日付



植物・自然現象

>



- 独創性 → ラズベリーパイを使ってのリアルタイムの天候によって表情が変化するというところが独創性においてポイントだと考えています。また、自然物を室内でも感じられるよう、要素を分解してデジタルに落とし込んだ点も新規性があると感じています。
- 地域適合性 → 新潟は自然豊かな土地なので自然の風景を見ることで、心地よく感じてくれる方が多いのではないかと思います。水面から、どこまでも広がる田んぼや雪深い新潟の雪解けの水の循環などを想起してもらえると嬉しいです。
- 実現可能性 → 公共施設や福祉施設、病院などに併設するアート空間兼休憩室として想定しています。外に出ることが難しい方や訪れた人に少しでも安らぎや自然を感じてもらうことがねらいです。

操作性 → ユーザーは操作することがなく、鑑賞するのみなので特に難しさはないです。

作品完成度 → 当初の計画としていた、「公共施設の照明」からより規模が広がり、心地よさを感じる「空間そのもの」をデザインするところまでジャンプアップしました。
技術面でも、光と影の変化する要素として、気圧のみだったところから気温と時間、日付の全部で3要素で制御するようにしました。
完成度としては、当初の計画以上のものになったと考えています。